

平成24年度～平成28年度

美咲町教育振興基本計画（答申）

学び・つながり・夢を育む 美咲の人づくり



平成23年11月

美咲町教育振興基本計画策定委員会

目 次

提案します	1
第1章 美咲町の教育の現状と課題	2
1 岡山県の教育をめぐる現状と課題	2
2 美咲町の教育の現状と課題	4
第2章 美咲町が目指す教育の姿	15
1 人づくりにおいて踏まえるべき観点	15
(1) 人をつくる	16
(2) 地域をつなぐ	17
(3) 夢を育む	18
2 美咲町の教育が目指す子ども像・人づくり	19
(1) 育みたい資質能力	19
(2) 基本目標	19
第3章 今後5年間に取り組む施策の基本的方向	20
1 基本的な考え方	20
2 施策体系	21
3 基本施策の方向	22
(1) 学校教育の推進	22
(2) 家庭と地域社会の教育力の充実と相互連携	23
(3) 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興	24
4 重点施策	25
(1) 学びプラン	25
(2) つながりプラン	26
(3) 夢育みプラン	26
第4章 施策の実現に向けて	28
1 推進体制	28
(1) 計画の周知	28
(2) 協働体制の構築	28
(3) 推進組織	28
2 関係団体機関との連携	28
3 計画の推進と評価	29
あとがき	32
資料	33

表紙は小学生と中
学生の合同授業の
一場面

提案します

今日、我が国の教育を取り巻く状況は、科学技術の進歩や情報化、国際化、少子・高齢化、核家族化などにより、急激に変化してきました。このような中、教育は学校だけでなく家庭や地域社会など、いろいろな分野の教育力が重要という趣旨で平成18年12月、制定から約60年を経て、教育基本法が改正されました。また、平成20年7月に国の教育基本計画が、そして平成22年2月に岡山県教育振興基本計画「未来を拓く人づくりプラン」が策定されました。

このような情勢を踏まえ、平成23年度、美咲町教育振興基本計画策定委員会が、有識者をはじめ、町内各方面から幅広くご意見をいただき、中長期的視点に立ち、平成24年度から平成28年度までの5年間の美咲町教育振興基本計画を策定することになりました。

この計画では、確かな学力、豊かな心、健やかな体など基本的資質・能力を育む学校教育や家庭・地域での教育の在り方、幼児から高齢者までの生涯学習や、文化・スポーツなどの振興を大切な課題としました。そして、未来を担う子どもたちの教育については、「未来への投資」の精神のもと、町全体で取り組むべきだと考えました。

この美咲町教育振興基本計画に基づき、町民の期待に応え、明るい美咲町の将来を切りひらく教育施策を推進されるよう提案します。



息を合わせて 「それっ！」

第1章 美咲町の教育の現状と課題

1 岡山県の教育をめぐる現状と課題

(1) はじめに

近年になり地球環境問題など、人類全体で取り組まなければならない問題が深刻化する中、我が国では経済・雇用情勢が悪化するとともに、少子・高齢化や核家族化などが進行し、先行き不透明感が増えています。教育を取り巻く状況にも影響を及ぼし、多様な価値観やライフスタイル、人間関係の希薄化が進んできました。このように激しく変化する社会の中、未来を担う子どもたちの教育に対する期待はますます高まっています。そして、学力・学習意欲の低下、コミュニケーション能力の低下、問題行動の増加など、子どもたちの教育をめぐる多くの課題が指摘されています。

確かに子どもたちは多くのストレスを抱えながらも懸命に努力を重ねていますが、岡山県の子どもたちの教育の成果は、期待の大きさとはいえ、全国と比べても生きる力の獲得の面など、必ずしも好ましい状態といえないものもあります。

働き盛りの世代にあっては多忙化やリストラなどで、ゆったり子どもと向き合えず、子育ての不安や悩みが多く、関係諸機関や保育園、学校などと連携しながら子育ての在り方を模索している状況があります。さらに、県北では過疎化の進行に伴い、高齢者が生きがいを持って元気に暮らすことのできる環境づくりが困難な側面もあり、大きな課題となっています。

(2) 学校教育

岡山県の子どもたちには、知識そのものより、習得した知識・技能を活用する力や思考力・表現力などが十分身に付いていない状況が見られます。子どもたちに学びに対する目的意識を持たせるなど、学習意欲を向上させるとともに、分かる喜びや学ぶ楽しさを感じながら、活用に関する読解力なども含め、確かな学力を育成することが必要です。

また、子どもたちが生涯にわたって健康で活力ある生活を営む基盤となる体力については、全国平均に比べやや下回る種目・学年があるものの、全体的には全国平均より高い水準にあります。その中では、「俊敏であるが持久力がやや弱い」という特徴が見えます。

知的障害を対象とする特別支援学校及び特別支援学級に在籍する子どもたちは増加傾向にあります。発達障害を含め、教育上特別な支援を必要とする子どもたちそれぞれの教育的ニーズに応じた支援体制づくりなど、特別支援教育の推進に向けた取組を充実させていく必要があります。

(3) 家庭や地域社会の教育

家庭の教育力を高めるための施策を通して、子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた保育所・幼稚園と小学校との連携など、幼児教育の充実を進めることが課題です。

また、多くの子どもたちが、外での遊びではなく、テレビやゲームなどで一人自宅で過ごすことが多いことから、健康・体力づくりの不足につながりかねないほか、社会の中でたくましく生きていくために必要な、豊かな人間関係を形成する能力や言語能力が培われにくくなっています。

このことから、子どもたちが地域での様々な社会体験活動などを行うことを通して、基本的なきまりや善悪を判断できる力、社会づくりに主体的に参画する意欲・態度をはぐくむことが求められています。

(4) 生涯学習・スポーツ・文化

地域のよさの再発見や市町村合併後の新しい「まち」の一体感の醸成、さらには地域活動の掘り起こしやボランティア活動の活性化など、生涯学習による地域社会づくりの気運が高まってきました。

岡山県の平成17年度の調査によると、「週1回以上運動やスポーツをしている人の割合は4割弱であること」から、引き続き、学校体育、スポーツ教室や総合型地域スポーツクラブなどを通して、一人一人の体力や年齢、興味、目的などに応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことのできる環境づくり、すなわち、生涯スポーツ社会の実現が求められています。

県民が心の豊かさを実感し、潤いのある生活を送るためには、地域の文化資源を生かして多様な芸術・文化に触れる機会を充実させるとともに、特色のある地域文化を創造していく人材の育成が重要です。



2 美咲町の教育の現状と課題

(1) はじめに

美咲町は平成 17 年度に三町が合併し、6 年が経過しました。平成 23 年度住民意識アンケート結果によると、次ページにある美咲町の教育に関するすべての問に対して、合併時の平成 17 年度に比べて、「わからない」という評価は 37.7% から 33.6% と少し減ってきて、肯定的な「はい」という回答の平均が 23.9% から 31.4% と 7.5 ポイント高くなっています。こうした結果を見ると、美咲町の教育に対する評価は上がってきていると考えられます。

平成 23 年 5 月 1 日現在、町内には小学校 5 校、中学校 3 校があり、小学生 746 人、中学生 405 人が在籍しています。統廃合で適正規模化に努めていますが、5 年後の平成 28 年度の小学校入学者は 88 人になることが予測され、小中学校とも小規模校化が進み、少人数指導の良さは出せるものの、「人間関係を学ぶための集団指導が難しい」といわれている学級編制になります。

現在、美咲町では、教育効果の向上を目指し、県や町独自の人員配置や、地域住民の熱い期待と献身的な支援を受け、豊かな自然の中で一人一人を大切にした教育が行われています。総合的な学習の時間などに地域に根ざした活動が取り入れられており、町の子育て支援政策と相まって、生まれ育った郷土に愛着を持ち、生き生きと活動する子どもたちが多く育っています。しかし、不透明と言われている将来の社会で必要とされる「生きる力」を身に付けることについては、不十分といわざるを得ません。

また、家庭教育の面では、共働きや核家族化などにより子どもと保護者・家族との関わり方が変化し、子育てに影響を及ぼし、さまざまな課題が生じています。

さらに、社会教育面では、生涯学習社会の実現に向け、講座の開催や諸施設の利用促進をはじめ、地域の諸団体の取組を支援するとともに、スポーツ・文化活動の充実・発展に取り組んでいます。参加者が伸び悩むなど、課題が生じています。

学校別児童数推移 (平成 17～平成 28 年度小学校新入学児童数・予測を含む)

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
加美小学校	31	22	23	31	28	29	34	35	31	37	28	32
美咲中央小学校	34	21	27	31	23	32	36	30	20	25	20	16
旭小学校	22	26	18	22	14	20	18	12	18	16	12	15
柵原西小学校	27	30	24	33	38	34	31	26	30	29	18	14
柵原東小学校	19	14	16	17	19	19	15	9	22	15	14	11
合計	133	113	108	128	122	134	134	128	98	122	92	88

※ 美咲中央小学校の平成 17 年度は厚生小学校、打穴小学校、大坪和小学校の合計

平成 23 年度住民意識アンケートの結果

回収率 43.5%

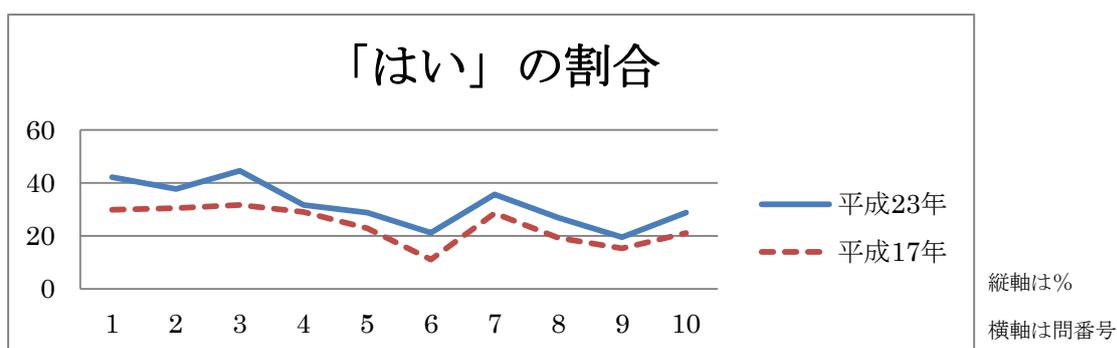
平成 23 年 5 月実施

(下段の数字は、平成 17 年度の結果)

数字は回答率%

(無回答は含まれていないため 100%にならない)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 1	お住まいの地域の地域行事・活動は活気があると思いますか。	41.2 (29.9)	27.3 (35.8)	29.2 (31.2)
問 2	歩行者や自転車にとってお住まいの地域の交通は安全だと思いますか。	37.5 (30.4)	13.4 (21.2)	48.6 (43.9)
問 3	お住まいの地域の子どもは、いきいきとしていると思いますか。	43.5 (31.6)	40.7 (49.9)	13.4 (13.6)
問 4	お住まいの地域は高齢者が暮らしやすい環境だと思いますか。	31.5 (29.0)	28.2 (33.1)	38.9 (34.2)
問 5	お住まいの地域は障害のある、なしに関わらず誰もが暮らしやすい環境だと思いますか。	28.7 (22.9)	32.4 (37.6)	38.9 (35.8)
問 6	美咲町の学校教育は、家庭との信頼関係がしっかりと築けていると思いますか。	20.8 (11.1)	66.2 (68.4)	11.6 (16.6)
問 7	あなたは現在、何かを学ぶ活動やスポーツ活動を行っていますか。	35.6 (28.5)	1.9 (3.0)	62.5 (64.7)
問 8	美咲町の文化施設・スポーツ施設について満足されていますか。	26.8 (19.2)	46.8 (50.5)	26.4 (26.2)
問 9	あなたは地域の歴史や文化について、他地域の人に話すことができますか。	19.4 (15.3)	25.5 (20.4)	55.1 (59.8)
問 10	美咲町は男女の差別なく、ともに自己実現が図れる町だと思いますか。	28.7 (21.0)	53.7 (57.4)	17.6 (17.8)
平 均		31.4 (23.9)	33.6 (37.7)	34.3 (34.4)



(2) 学校教育

① 知育

平成23年4月に中学校1年生を対象に実施された岡山県学力学習状況調査によると、学力状況については、美咲町の子どもはやや低く、県平均との差は基礎的知識の理解や計算力などは小さいものの、活用力や記述問題では大きくなっています。学習に十分な深まりがなく、思考力や表現力が伸びていないということが考えられます。

また、学習状況については、家庭学習の時間は徐々に増え県平均に近づいてきていますが、テストの間違い直しなど、学習内容の工夫が課題で、なかなか学力が伸びていない現状があります。学校と家庭で連携しながら学力向上に懸命に取り組んでいますが、人的・財政的支援も含め長期的な展望をもった取組が不可欠です。進学後も中途退学したり、目的を見いだせず行きづまったりする事例もあり、個々に合った適切な支援が求められています。

平成23年度学力状況調査結果 (数字は点数) 対象中学校1年生

	国語		社会		数学		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
美咲町	68.2	62.6	48.4	37.3	63.8	11.6	58.8	54.8
岡山県	70.8	66.7	52.9	42.2	67.2	18.1	64.2	54.9

平成23年度学習状況調査結果 (数字は%) 対象中学校1年生

問 学校の授業時間以外で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含みます)

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	0.5~1時間	30分より少ない	全くしない	無回答
美咲町	6.4	15.2	37.6	28.8	10.4	1.6	0.0
岡山県	7.0	16.9	34.5	25.4	11.6	4.6	0.0

問 テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。

	している	どちらかといえばしている	あまりしていない	全くしていない	無回答
美咲町	12.0	33.6	36.8	17.6	0.0
岡山県	22.4	33.5	29.9	14.1	0.1

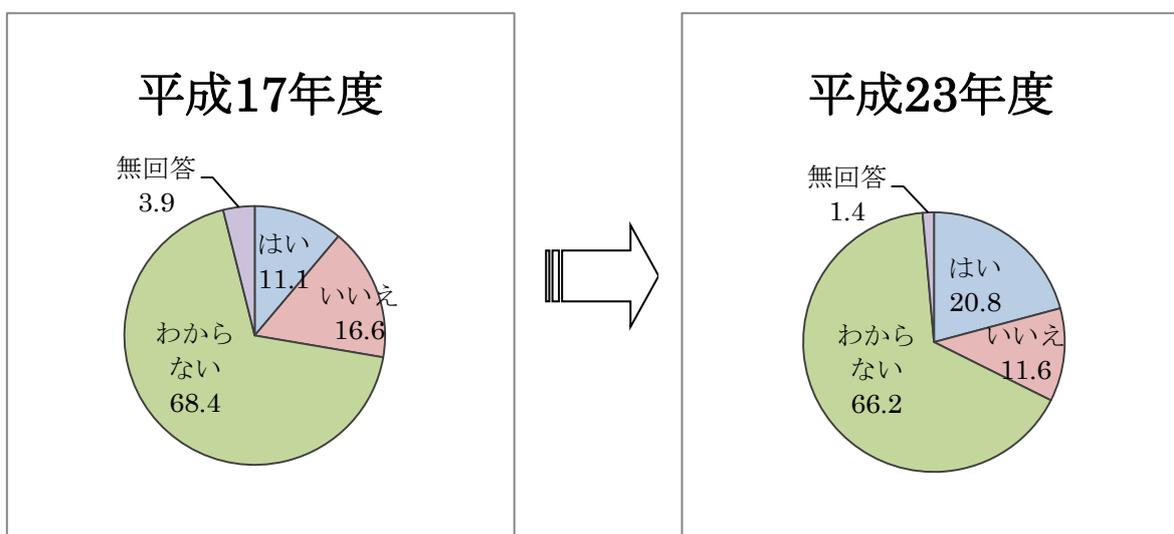
② 徳育

子どもたちは家庭や地域で大切に育てられ、素直な考え方や、明るいあいさつができ、決められたことにはよく取り組んでいます。平成23年度住民意識アンケートの結果によると、「美咲町の学校教育は、家庭との信頼関係がしっかりと築けていると思いますか」という問いに対して、「はい」という回答が「いいえ」を上回り、平成17年度の約2倍の20.8%に向上しています。しかし、住民の2割にとどまっているという状況では、依然として信頼関係が築けていると感じている割合が低いと考えられます。

個人中心の考え方が強くなっている風潮の中、人と関わる経験が不足しがちです。そのため、人の話が聞けず気持ちが理解できにくかったり、相手との適切な距離が保てなかったりして、自己表現、相手への思いやり、礼儀などに人間関係を円滑に築くうえでの課題がある子どもが増えてきました。暴力、いじめや不適應、不登校など深刻な生徒指導上の課題もあります。

平成23年度住民意識アンケート結果

問6 美咲町の学校教育は、家庭との信頼関係がしっかりと築けていると思いますか。



平成22年度児童生徒問題行動調査より (数字は人口1,000人あたりの人数)

	いじめ (件)		不登校 (人)		暴力 (件)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
美咲町	0.0	18.1	2.7	28.5	20.3	38.9
岡山県	3.7	10.1	5.2	31.4	3.2	34.9

③ 体育

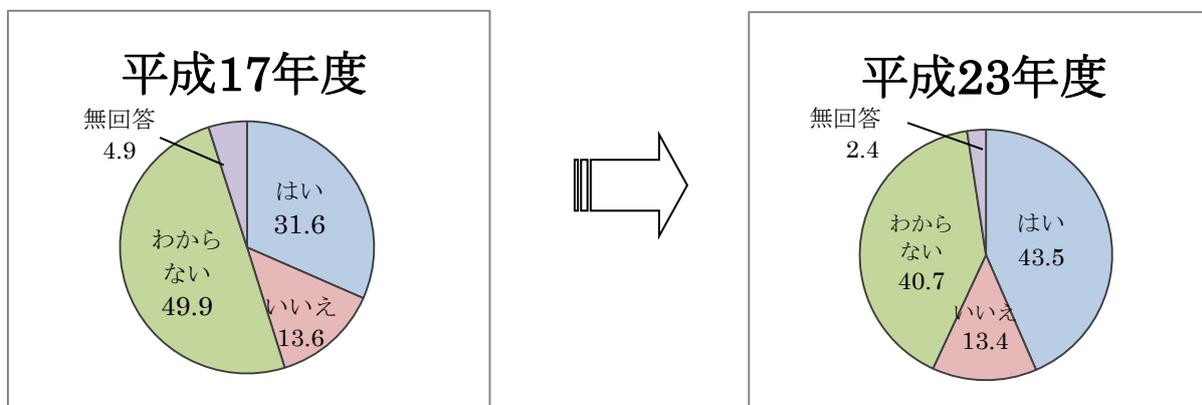
平成23年度住民意識アンケート結果によると、「お住まいの地域の子どもはいきいきとしていると思いますか」という問いに対して、「はい」という回答は43.5%で平成17年度より約12ポイント増加しているものの、半数以上が「いいえ」、「わからない」と答えています。「近所で子どもを見なくなったのでわからない」といった記述が見られるように、遊びや通学手段の変化などにより、子どもたちの体力を取り巻く生活環境が変化してきたといえます。

意欲的にスポーツに取り組む子どもがいる一方で、額に汗し体を動かす機会が減り、運動に親しめず、体力や忍耐力・粘り強さに欠ける子どもも増えています。文部科学省が発表した平成22年度児童生徒運動能力テストの結果によると、子どもたちの体力は12年前から大幅に向上したことが明らかにされましたが、ピークであった25年前に比べると依然低い水準ということです。

美咲町の子どもたちの運動能力は、平成22年度岡山県児童生徒運動能力テストの結果によると、中学2年生の平均は県平均と大差はありません。しかし、柔軟性の目安である長座体前屈では課題が見られます。

平成23年度住民意識アンケート結果

問3 お住まいの地域の子どもは、いきいきとしていると思いますか。



平成22年度岡山県児童生徒運動能力テストの結果

対象中学校2年生

男子	握力	長座体前屈	往復持久走	50m走	ハンドボール投げ
美咲町	31.0 kg	39.5 cm	86.8 回	8.1 秒	20.1 m
岡山県	30.3 kg	45.8 cm	83.4 回	7.9 秒	21.9 m

女子	握力	長座体前屈	往復持久走	50m走	ハンドボール投げ
美咲町	26.2 kg	42.9 cm	61.9 回	8.8 秒	13.3 m
岡山県	23.9 kg	47.1 cm	55.0 回	8.9 秒	13.3 m

④ 特別支援教育

特別な支援を必要とする子どもの割合が増えており、特別支援学級や通常学級での個にあわせた対応が困難になっています。幼児期の養育の在り方も含め入学前の就学指導や卒業後の受け入れ体制といった課題もあり、早急な支援が必要となっています。

美咲町内特別支援学級児童数の推移(平成18年度～23年度)(数字は人数)

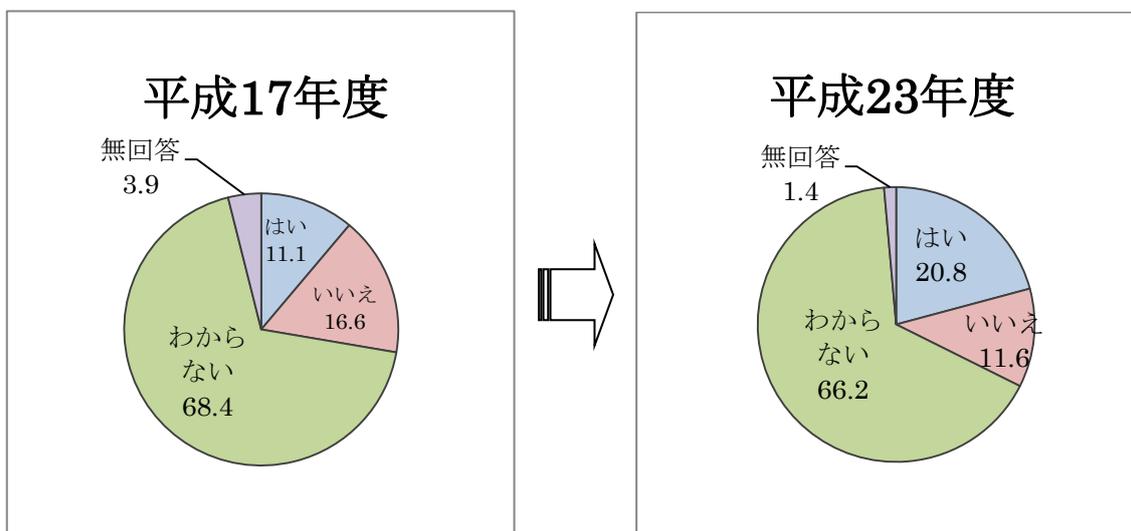
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
知的障害	9	11	11	10	12	15
自閉・情緒	12	13	16	20	21	25
児童数	777	740	765	732	740	746

⑤ 開かれた教育

子どもたちの健全育成には、教職員と保護者との良好な関係が欠かせません。お互いの役割を自覚し合い、情報を共有し合って、ゆとりを持って支援していくことが大切です。また、前述の住民意識アンケート問6で「わからない」という回答が60%強と他の結果より突出しています。「近所に子どもがいないので学校の様子はわからない」などの記述にもあるように、まだ地域住民には、今の教育の実態や方向性が十分に伝わっていないことも考えられます。子どもから高齢者に至る幅広い年齢層へ情報を伝えるとともに、地域住民が学校運営に積極的に関わるコミュニティスクールの取組など、地域に根ざした学校づくりを推進していくことが求められます。

平成23年度住民意識アンケート結果

問6 美咲町の学校教育は、家庭との信頼関係がしっかりと築けていると思いますか。



(3) 家庭や地域社会の教育

① 家庭教育

家庭環境をめぐる課題は多くなっています。家族で協力し合って生産活動をしていた時代とは状況が異なっています。現状では、親が子どもに接する時間が少なく、多くの人と関わる中で生きるための術を学ぶといった一昔前の子育てが難しくなっています。また、保護者が子育ての疲労感や孤立感からストレスを抱え込み、物を与えて満足させたり、虐待や放任したりすることも生じており、子どもたちの育つ環境にしわ寄せがきています。基本的な生活習慣が身に付かず、生活のリズムが整わない子どもが増えるとともに、生きる力の源である豊かな情操や粘り強さなどが伸びにくくなってきていると考えられます。

また、平成23年度学習状況調査の「学校での出来事について家の人と話している」という割合は県平均より低くなっていることから、家庭内での会話を増やしていくことが求められています。



高校生の意見を聞く会の一場面

美咲町では以前から保護者に寄り添い、高校生までの医療費の無料化など、子育てに対する支援を行っています。振興計画策定にあたって開催した「高校生の意見を聞く会」で、ある高校生が、「他町村の生徒と話す中で、高校生になって、医療費が町負担だったのは美咲町だけだったことを知った」と誇らし気に話してくれました。

また、家庭教育支援センターが各支所にでき、相談活動などが行われています。このような美咲町の先進的な支援をさらに充実させ、保護者や家族の子育てを支援していく必要があります。

平成23年度学習状況調査結果

(数字は%)

対象中学校1年生

問 学校での出来事について家の人と話をしている。

	あてはまる	どちらかといえばしている	どちらかといえばしていない	全くしていない	無回答
美咲町	30.4	43.2	21.6	4.8	0.0
岡山県	47.0	32.8	16.6	3.5	0.0

② 地域社会の教育力

地域住民の学校に対する期待感は強く、大変協力的です。学校支援地域本部事業をはじめとする各種の学校支援ボランティア活動が熱心に行われており、子どもの登下校見守り活動など、支援の輪も広がっています。

また、中学生の学習状況調査の「今すんでいる地域の行事に参加している」という問に対して「あてはまる」と答えた子どもが56.0%と、県平均37.3%の1.5倍です。このことは、美咲町の大きな特徴といえます。子どもの地域行事への積極的な参加は、地域における家庭の子育て支援、近所同士の絆を深める活動などが功を奏しているのでしょう。美咲町の実態に合った、子どもたちが健全に育つ地域ぐるみのコミュニティづくりが求められています。そして、このことが地域の活性化や住民の生きがいがいづくりにつながっていくと考えられます。

平成22年度学校支援地域本部事業のボランティアの学校支援活動（延べ人数）

	学習支援活動	部活動指導	環境整備	登下校安全指導	学校行事
A小	204		16		97
B小	353		41	928	
C小	363		36		251
D小	142				74
E中	67	16	43		6

（他校はこの事業によらずボランティアの協力をいただいています）

平成23年度学習状況調査結果（数字は%）

対象中学校1年生

問 今すんでいる地域の行事に参加している。

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	無回答
美咲町	56.0	29.6	10.4	4.0	0.0
岡山県	37.3	30.4	19.6	12.6	0.1

③ 学校・家庭・地域の連携

学校では P T A や保育園などと連携した「早寝・早起き・朝ごはん」を中心に、規則正しい生活習慣を身に付けさせる取組が行われています。しかし、家庭の状況によっては取組が困難な場合もあると考えられます。休日や長期休業中の自律的な生活支援のための受け皿や、魅力ある行事が必要です。また、活字離れの子どもたちの読書活動の課題もあり、子どもを取り巻く関係者が手を携えた、さらなる工夫が求められています。

平成 23 年度学習状況調査結果 (数字は%) 対象中学校 1 年生

問 学校の授業時間以外で本を読んだり借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

	週に 4 回以上	週に 1 ～ 3 回程度	月に 1 ～ 3 回程度	年に数回程度	ほとんど行かず	無回答
美咲町	3.2	5.6	24.8	34.4	32.0	0.0
岡山県	2.1	10.5	25.5	29.1	32.1	0.6

④ 人権教育

個人が優先されがちな社会にあっては、相手の気持ちや人権がおろそかになりがちです。住民意識アンケート問 4、問 5 の「高齢者や障害のある人などが暮らしやすい環境であるか」の回答では、「いいえ」が「はい」を上回っており、大きな課題と考えられます。

また、問 4、問 5 の「わからない」という回答がそれぞれ 28.2%、32.4% に対して、問 10 の男女差別に関する問に対しては、「わからない」という回答が 53.7% (男性 51.0%、女性 55.8%) と高く、差別や不合理に対する意識の低さが要因とも考えられます。男女共同参画社会の実現のため、一層の啓発活動が必要と思われます。

平成 23 年度住民意識アンケート結果 (数字は% : 下段は平成 17 年度の結果)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 4	お住まいの地域は高齢者が暮らしやすい環境だと思いますか。	31.5 (29.0)	28.2 (33.1)	38.9 (34.2)
問 5	お住まいの地域は障害のある、なしに関わらず誰もが暮らしやすい環境だと思いますか。	28.7 (22.9)	32.4 (37.6)	38.9 (35.8)
問 10	美咲町は男女の差別なく、ともに自己実現が図れる町だと思いますか。	28.7 (21.0)	53.7 (57.4)	17.6 (17.8)

(4) 生涯学習・スポーツ・文化

① 生涯学習の振興

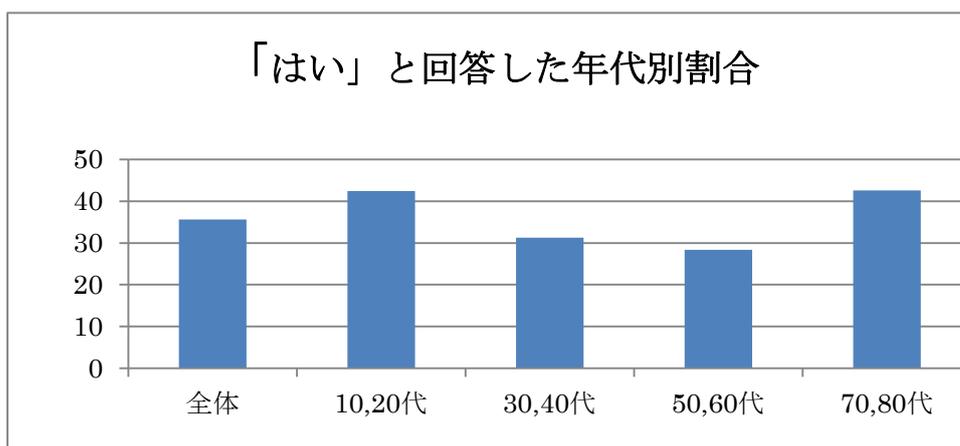
生涯学習講座が3地区の公民館を拠点に続けられていますが、参加者が減少傾向にあります。公民館の人的・物的な環境整備が不十分であり、地域の人材や図書館などの施設の効果的活用が課題になっています。

今後、退職者が急増する時代を迎え、生涯学習の機会を求める人が増加してくると思われます。住民意識アンケート問7の「何かを学ぶ活動やスポーツ活動を行っていますか」という問に対して、50、60代までは年代が上がるにつれ「はい」という回答が減っていますが、退職後の70、80代では逆転しており、機会の増加と意識の高まりがうかがえます。町の活性化につながる生涯学習の充実に向けて、ニーズの把握や情報提供をはじめとする体制づくりが必要です。

平成23年度住民意識アンケート結果 (数字は%:下段は平成17年度の結果)

問7「何かを学ぶ活動やスポーツ活動を行っていますか」

はい					わから ない	いいえ				
全 体	10,20代	30,40代	50,60代	70,80代	全 体	全 体	10,20代	30,40代	50,60代	70,80代
35.6	42.4	31.3	28.4	42.6	1.9	62.5	54.5	68.8	70.1	54.4
(28.5)	(36.8)	(27.1)	(28.6)	(25.6)	(3.0)	(64.7)	(57.3)	(69.1)	(67.2)	(61.5)



(縦軸は%)

② 生涯スポーツの振興

美咲町ではスポーツ少年団活動や中学校の部活動に熱心に取り組まれており、子どもたちの心身の成長に多大な成果を上げています。多感な時期の子どもたちが心と体を鍛えるうえで大変有効な活動と考えられますが、指導者の大きな負担については解消されないまま現在に至っています。

また、美咲町では地域に根ざした総合型地域スポーツクラブが2地区で続けられており、生涯学習の一つとしての歩みを続けています。しかし、スポーツに消極的な町民も多く、もっと参加しやすいものを求める意見もあります。生きがいくりにつながるスポーツを楽しめる環境づくりやボランティアによる中学校の部活動支援が模索されています。

平成23年度から、小学校区対抗の「みさき町民大運動会」が住民の手で自主的に実施され、町民が一堂に会する取組として注目されています。



③ 芸術・地域文化・文化財の活用

町内各地域には、歴史を伝える豊富な文化財があり、研究・保存活動に熱心な人材もいます。平成22年度国民文化祭では美咲町の文化活動が脚光を浴びました。しかし、文化の伝承や発展に欠かせない人材育成や活動の継続性に課題があります。さらに、この文化活動を明日を担う子どもたちの教育に活かしていくことも必要です。

スポーツ活動と比べて、文化・芸術活動の発表の機会や奨励活動が不足しており、文化活動は低調であるといえます。若い世代に文化離れが目立つ現状があり、これまで地域で取り組んできた活動を大切にするとともに、若者にとって魅力ある活動になるよう工夫をこらし、町民文化のレベルアップを図る必要があります。また、地域の人材の育成や活用を図り、生きがいを持って活動する姿にお互いが触れ合うことが、活気のある地域づくりにつながっていくと考えられます。

平成23年度住民意識アンケート結果 (数字は%：下段は平成17年度の結果)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 9	あなたは地域の歴史や文化について、他地域の人に話すことができますか。	19.4 (15.3)	25.5 (20.4)	55.1 (59.8)

第2章 美咲町が目指す教育の姿

1 人づくりにおいて踏まえるべき視点

教育は、人それぞれの持つ多様な特性を活かし育みながら、人格の完成を目指すものです。さらに、すべての人が豊かで幸福な人生を送るうえでも、家族の一員としての役割を担って、地域社会づくりに参画・貢献できる人材を育成するうえでも、極めて重要です。

第1章の分析によると、これからの美咲町を取り巻く社会は、生活様式や価値観の多様化が一層進むとともに、産業構造・雇用形態などの変化、情報化や国際化の進展、地球規模での環境問題、少子・高齢化、核家族化などが一層進行し、私たちは多くの課題に直面していくと考えられます。

また、21世紀は新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性を増す社会になるといわれています。単に学校で知識・技能を習得するだけでなく、人と関わり、知識・技能を活用していく力、自分の良さを発揮しながら生涯にわたって学び続け、粘り強く人格を磨いていく自己教育力を身に付けることが求められています。

美咲町の次代を担う人づくりにおいて、教育の果たす役割は極めて大きく、かつ地域住民の期待にも熱いものがあります。今後の美咲町の教育を推進していくうえで、現状と課題の中から施策の柱になる次の3つの視点を設定しました。この3つの柱は互いにつながっており、明日の美咲町を切りひらくキーワードと考えました。

視点1 人をつくる

視点2 地域をつなぐ

視点3 夢を育む



(1) 人をつくる (学びづくり)

① 確かな学力、健やかな心と体

いわゆる「読み書き計算」に加え、課題探求能力、判断力、先見性、創造力などの確かな学力を身に付けさせることが必要です。個の特性・能力を最大限に伸ばすために、そして学習意欲の喚起と学習習慣の定着を目指すためには、子どもの思い、たとえば「わかった」「楽しい」「やってよかった」「やればできる」「また挑戦してみよう」を大切にしながら目標をもたせることがポイントとなります。また、健やかな心と体をつくるうえで、目標を掲げ、実現に向けて、見通しをもちながら粘り強く取り組むことの大切さや感動を実感させることも大切です。

② 豊かな心を育み、人と人とのつながりを深めるために

語いや表現力を身につけ、コミュニケーション能力を養う中で、責任を果たすことや社会のルールを守るなどの規範意識、人を思いやる心、命を大切にする豊かな心を育てていきます。自分の意見もしっかり言うが、人の話もじっくり聞ける(自分の大切さとともに他人の大切さを認めようとする)態度を育てることが大切です。集団生活を通し、互いに高め合っていく喜びを経験させていく必要があります。

③ しつけ、礼儀

「時を守り、場を清め、礼を正す」。人間関係は互いを尊重し合うことから始まります。人と人が適切な距離と節度を保つうえで、あいさつや礼儀は不可欠です。保護者が子どもに幼い時期から深い愛情を注ぎ、粘り強く計画的にしつけていくことが必要です。また、それを周囲の者がしっかり支援していくことが重要です。「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません」。のオアシス運動など、地域全体での心を育てる取組が大切です。

④ 自ら挑戦する意欲や創造性

子どもが学ぼうとするためには、その必要性を感じさせ、自ら取り組むようになるための支援が必要です。失敗させてはいけないと考え、大人が先回りしたり、できることまで大人がやったりすれば、自分で挑戦できない傷つきやすい子どもになってしまいます。個々に合った適切な課題に取り組みせ、自信とやる気を育て、何事もチャレンジしてみようとする前向きで創造力を持った子どもを育てていくことが大切です。

⑤ 不足感は教育の動機づけのもと

親の自己満足で子どもにとって必要のないものまで与えてはいないでしょうか。「雨で濡れるのがかわいそう」と車で送迎したとします。そのことが「雨が降っているのに、車で送ってくれたら学校へ行ってあげる」という依存心の強い子どもにしてしまうのではないのでしょうか。「ハングリー精神は満ちあふれた環境から育たない」ということは教育の鉄則です。

⑥ 人権教育

いじめ問題は、子どもたちの世界で正義を主張することが困難になっていることの現れです。他人への思いやりや不正を許さない心を育むとともに、人のちがいがわかり合える豊かな人権感覚を身に付けさせることが必要です。

⑦ 特別支援教育

障害のある子どもの教育は教育の原点です。特性を踏まえ個々に合った指導が必要です。また、共生社会の実現に向け、共に学ぶという視点が必要です。

(2) 地域をつなぐ (つながりづくり)

① 安全・安心の地域づくり

互いに声をかけ合い、助け合っていくことが地域づくりの基本です。まずは「向こう三軒両隣」の精神から。「お互いさま」の気持ちで人と人とのつながりを大切にしたい安全・安心の地域づくりを目指していきます。

② 役割分担と連携

子どもは地域の宝です。子どもは第一義的には家庭で育てるものですが、学校での教育や地域での触れ合いを通して多くのことを学んでいきます。互いの役割分担を確認し、そのうえで連携して取り組んでいくことが必要です。子どもを荷車の上に乗せ、左右の車輪を保護者と学校が回し、後ろから地域の皆さんが押して進めていきましょう。三者が息を合わせないと子どもはまっすぐ進めません。

③ 開かれた学校

開かれた学校づくりを通して学校の敷居が低くなります。学校の課題を踏まえたうえで、地域の人材を活用することが、子どもたちの確かな学びにつながります。茶道や生け花の手ほどきを受けての情操豊かな環境づくり、見守りボランティアによる安全・安心な通学などが可能となります。学校の子どもたちへの支援活動によって人や地域のつながりが生まれます。

④ 知恵や文化を活かした教育をすすめる

生涯にわたって自己の価値を高め、社会に活かしていけるよう、いつでもどこでも学習できるようにします。図書館、公民館、体育館、博物館、福祉施設、学校、コミュニティハウスなどの施設や、山、川、田畑などの自然の中にも学べる場所があります。その道の達人や企業の人、公務員などの人材も豊富です。「美咲町人材バンク」を整え、子どもを含め町民が自主的に学べる体制づくりが不可欠です。

⑤ 郷土のよさを知り、愛着がもてるようにする

美咲町の自然や歴史を身近に感じ、親しむことが、子どもたちの教育には有効です。また、地球環境を守る取組は地域のつながりづくりなしにはできません。

⑥ 地域の文化・スポーツの交流

文化・スポーツを通して人や地域が交流したりつながったりすることができます。

(3) 夢を育む（夢育みづくり）

① 子育て、健康づくり

美咲町では子育て支援施策により、乳幼児の医療費はもとより、高校生まで医療費の無料化が行われています。「子育てをするなら美咲町で」という機運がさらに盛り上がるよう、各種の福祉政策の継続が必要です。そして、自分自身の健康管理能力を高めることが課題です。

② 夢を育む

夢や目標がないところに、生きがいや努力をしようという気力は生まれません。子どもたちのあこがれは、スポーツ選手であったり、様々な場面で活躍しているヒーローであったりします。また、高齢者にとっての生きがいは、健康に暮らすことや人の役に立つなど自己有用感であったりします。また、新しい知識や技術を身につけたり、崇高なものや豊かな心に触れたりすることは大きな喜びにつながります。豊かな生活体験、自然体験、社会体験などは子どもの心や体をわくわくさせます。「自分は活かされている」と実感することが、子どもを成長させます。



③ 社会の形成者としての自覚

大人の生き方は子どものお手本になります。大人が将来の目標やモデルになるような姿を見せると、子どもは夢を膨らませます。社会の一員として自分を大切にし、自己を高めながらしっかり生きている姿は、子どもに大きな影響を与えます。

④ 地域を大切に作る心

地域づくりの要点は、互いのコミュニケーションがとれるか否かです。地域の宝物である子どもたちを中心に据え、たっぷり愛情を注ぎ、成長を支援し、温かく見守っていくことが、子どもたちの地域への感謝の思いや夢を養います。これまで培われてきた地域の文化や伝統が、現在の私たちのルーツです。先人の知恵や歴史を学び、夢を描いて将来へ向かって生きていく力を養っていくことが大切です。

⑤ 生きがいの持てる生涯学習の環境づくり

心と体の健康のため、集団または個人でスポーツや文化活動に取り組める環境づくりが必要です。また、子どもたちが、より豊かな生き方を目指し、趣味を伸ばし、他人との関わりを広げていくことが地域への感謝と愛着を抱かせ、将来の夢を育みます。

2 美咲町の教育が目指す子ども像・人づくり

(1) 育みたい資質能力

① 自立

少子化により、子ども一人一人に向けられる関心が一層高まる今日です。子どもへの支援がその成長に着実につながっていくことが肝要です。しかし、効率化を急ぐあまり、「早く、早く」とせかすことに象徴されるように、発達段階に合わない支援は、心と体の成長や情操の発達を阻害するだけでなく、自主性の喪失につながりかねません。子どもの発達段階に合わせた支援が、一人一人の能力を最大限に発揮させ、社会の変化に対応し、たくましく生きていくことにつながります。



② 共生

21世紀は「人権の世紀」といわれています。美咲町が高齢化社会を迎えるだけでなく、国際化社会の進展に伴う外国人の就労など、かつてなかったような枠組みで生産活動を支えていかなければ、私たちの暮らしが成り立たない社会になっていくことも予想されます。また、生活の質の向上を求めるすべての人にやさしい、共生社会の実現が必要です。異なるものが出会い、お互いが違いを乗り越えて手をつなぎ合い、新しいものが生まれるような底力のある美咲町にしていくことが重要です。

③ 郷土を愛する心

お世話になった人や物に感謝することは、人としての最も基本的な資質です。子どもの言いなりになるような育て方をした結果、子どもが「やってもらえることが当たり前」の自己中心的な言動により、指導者などとトラブルを引き起こすことがあります。家族をはじめ生まれ育った郷土で家族をはじめ多くの人々と関わり、学び成長してきたことに気づき、感謝するとともに、さらに、自分の夢の実現に向かって力強く羽ばたいていくことのできる子どもの育成が必要です。

(2) 基本目標

以上の「人づくりにおいて踏まえるべき視点」や「育みたい資質能力」から、美咲町の教育の基本目標を次のように掲げます。

学び・つながり・夢を育む 美咲の人づくり

第3章 今後5年間に取り組む施策の基本的方向

1 基本的な考え方

(1) 「子ども」と「教育」のとらえ方

変化の激しいこれからの社会を担う子どもたちには、自律心や判断力が求められます。また、子どもたちの苦しみや問題行動の背景にあるものや原因の分析に基づいた一人一人に合わせた教育を追究していくことが必要です。

学校（教職員）と家庭（保護者）との相互理解と連携をより確かにすることによって、さまざまな教育課題に対応する教育活動の効果が上がります。さらに、関係者（団体）のみならず、世代間・地域間の連携により、「子どもは地域の宝」「教育は未来への投資」という機運をつくっていくことが重要です。

(2) 人が学ぶということ

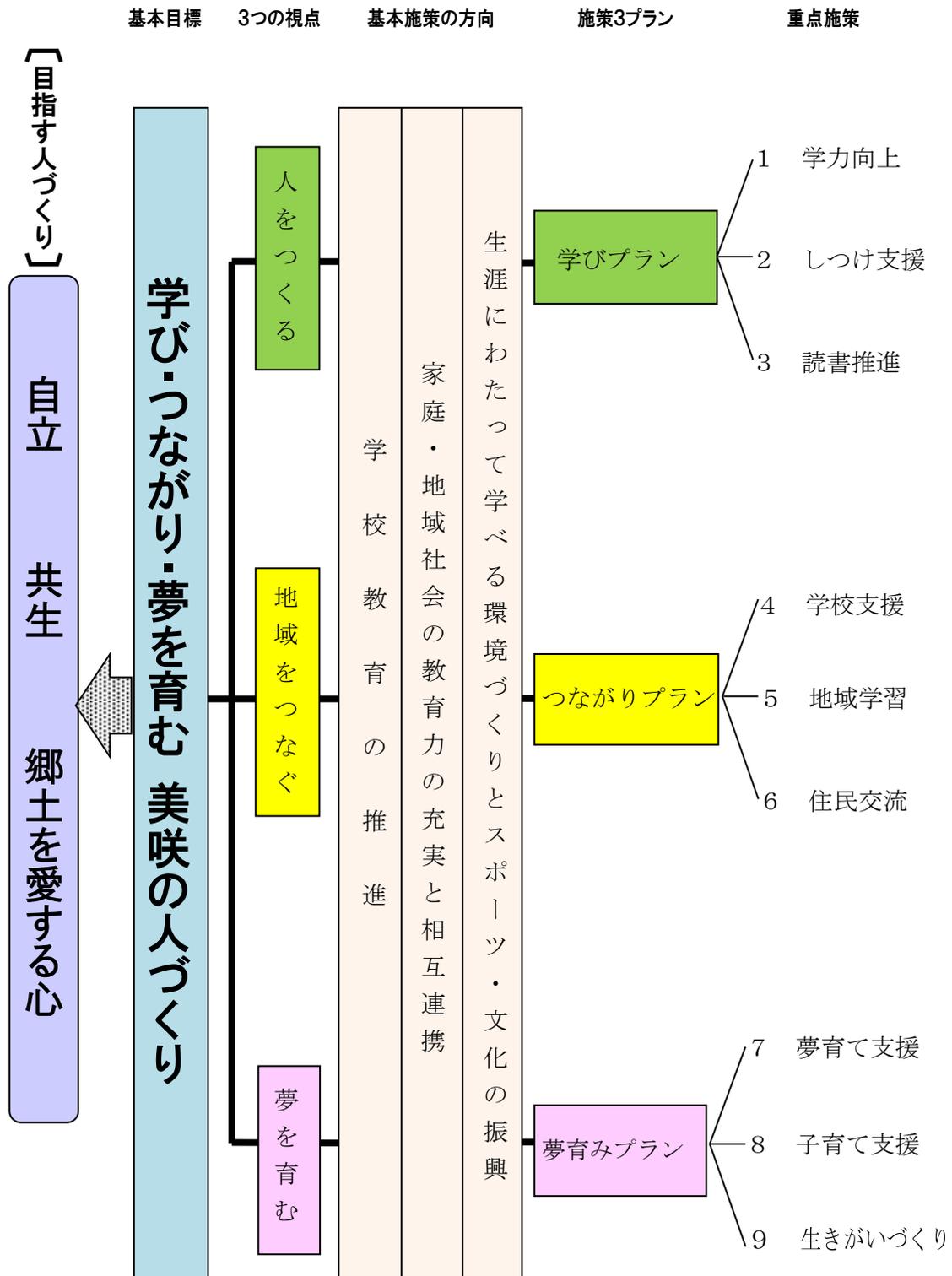
一人一人が自己の人格を磨きながら、豊かな社会づくりを目指し、生きがいを持ちながら生涯にわたって学び続ける自己教育力の育成が重要です。そして、その機会が与えられるべきです。

(3) 人がつながるということ

人は集団なしに生きられないだけでなく、社会生活をするうえで属する集団を自分で選択することができません。自分の属した集団で、自己表現し、能力を発揮するには、適切なコミュニケーションをとったり協力したりするなど、社会性を身に付けていくことが不可欠です。そのためには、人とつながる力の育成が必要です。



2 施策体系



3 基本施策の方向

(1) 学校教育の推進

自然環境や歴史的・文化的資源に恵まれた美咲町では、保育園、小学校、中学校の緊密な連携のもと、「開かれた学校づくり」、「地域に根ざした教育」が進められています。各学校では、主体的な学習意欲を喚起し、確かな学力を身に付けるための授業改善を図ります。さらに、教職員が子どもたちとの信頼関係のもとに、規範意識の醸成と自己有用感の伸長を図ります。そして、これから迎える変化の激しい社会を夢や目標を持って、主体的、意欲的に生きる力を身につける必要があります。

美咲町の教育力を向上させるには、「美咲町ならではの」安全・安心のための教育環境の整備・充実が必要です。適切な学習環境や、町独自の支援員や学校支援ボランティアの人的支援など、美咲町の強みを活かした取組が考えられます。

また、近隣の岡山県立誕生寺支援学校や高等学校と連携したり特別支援教育やキャリア教育を進めたりすることが必要です。人権教育については自他の人権や生命尊重の精神が身に付くよう、家庭、地域と連携しながら学校をあげての研修・実践活動が求められています。

さらに、国際化や高度情報化など、時代の進展に対応した教職員の豊かな感覚や資質向上を図り、子どもたちの英語活動や情報活用能力の育成、情報機器、情報通信環境の整備を進めます。自然と共存できる再生可能な環境教育も推進していきます。

学校教育

- ① 確かな学力の育成
- ② 豊かな心の育成
- ③ 生徒指導の充実
- ④ 体力づくり、健康づくり
- ⑤ 特別支援教育の充実
- ⑥ 人権教育の推進
- ⑦ 食育教育の充実
- ⑧ 自然とつながる環境教育の推進
- ⑨ 時代の流れに対応した教育
- ⑩ 開かれた学校づくり
- ⑪ 教育環境の整備
- ⑫ 教職員の資質向上



(2) 家庭と地域社会の教育力の充実と相互連携

少子・高齢化や急激な過疎化などにより、家庭や地域社会の人と人とのつながりが希薄になり、子どもたちを育てにくい状況になりつつあります。基本的な生活習慣の確立や健全育成の推進が必要です。

そのためには、乳幼児から少年期までの子どもを持つ保護者を対象とした美咲町の子育て支援政策に基づいた諸活動の充実と、施設の充実や相談員の養成・資質向上などが欠かせません。家庭訪問や懇談会などの機会を捉えての情報や学習機会の提供・相談など、きめ細やかな子育て、家庭教育支援活動も必要です。子育て支援のネットワークの充実を図り、保護者が安心して子育てできる体制づくりも進めます。

また、社会教育団体の活動を支援することにより、地域社会の教育力の活性化を図ることができます。特に、PTA活動の活性化を通して、子どもたちに規則正しい生活習慣やしつけ、健全な食生活などを身に付けさせる取組が可能になります。

さらに、学校支援ボランティア活動への住民参加や、祭りや体験活動への子どもたちの参加など、互いの関わり合いの機会を通して地域の教育力の向上を目指すとともに、明日を担う若者が地域のことを知り、主体的に参画する意欲や態度を養うような取組が求められます。

国の「人権教育・啓発に関する計画」、岡山県の「第3次岡山県人権政策推進指針」を踏まえ、「美咲町人権教育基本方針」などに基づき、人権問題について理解と認識を深め、すべての人に基本的人権尊重の精神が息づくような人権教育・啓発活動を行います。そのためには、実践力のある指導者の養成や資質の向上に努めるとともに、人権教育啓発資料の作成や視聴覚教材の整備とその活用を図っていきます。

家庭と地域社会の教育

- ①基本的な生活習慣の定着
- ②家庭教育支援
- ③子育て支援
- ④青少年健全育成活動の推進
- ⑤地域社会の教育力の充実
- ⑥学校・家庭・地域の連携強化
- ⑦人権教育・啓発の推進



(3) 生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興

生涯にわたって心豊かで充実した生活を送るためには、一人一人が主体的に学習することが重要で、その機会の創出が必要です。生涯学習講座に参加したり、図書館や公民館を積極的に利用したりしながら、住民が学び合えるような場をつくります。総合型地域スポーツクラブの取組など自主的な活動の支援を行います。学校・家庭・地域の相互に連携した取組を通して、子どもたちの読書活動を推進します。

また、幼児期から高齢期まで、ライフステージ、目的や考え方に応じて、生涯にわたって誰でも健康で、生きがいのある豊かな人生を送るために、生活の中にスポーツを取り入れることのできる環境づくりを推進します。

さらに、豊かな心を育み、潤いのある生活を送るために、優れた芸術・文化にふれる機会を拡充するとともに、多彩な文化活動に主体的に取り組める環境を整備します。また、地域に長い間受け継がれてきた文化財・伝統文化を広く市民に紹介し、活用することで、郷土の誇りや愛着心を醸成させ、地域づくりに寄与する機運を盛り上げます。

生涯学習・スポーツ・文化活動

- ①生涯学習施設の整備充実
- ②社会教育団体の育成
- ③生涯スポーツの推進
- ④芸術・文化活動の振興
- ⑤文化財の保護・活用
- ⑥生きがい・健康づくり



4 重点施策

(1) 学びプラン

① 施策1 学力向上

目 標 学力向上、豊かな心や人権感覚の育成、
体力・健康づくりを図ります。

方策例☆きめ細かな教育を進めるため、校内研
修の充実や教育活動の改善などにより、
学校の組織的な教育力を高めます。

☆特別支援教育を充実します。



② 施策2 しつけ支援

目 標 子どもたちの健全育成のため家庭教育の支援を充実させます。

方策例☆「おはようございます、おかえりなさい、ありがとうございます」な
どのあいさつ運動を展開し、家庭や地域全体で心を育てる取組を実践し
ます。

☆保育園で「はやね・はやおき・あさごはん」のキャンペーンを展開し、
意欲ある子どもを育てる活動を支援します。

☆家庭教育支援に関する情報を提供します。



③ 施策3 読書推進

目 標 町民の読書水準と子どもたちの国語力をアップします。

方策例☆学校・図書館・読書推進活動グループとの連携により、年齢に合った
書物の選定・紹介、啓発活動を行い、図書館や図書室の利用促進を図り
ます。

☆町内どこでも、読書の楽しさが味わ
えたり、必要な情報が得られたりする
ように図書館サービスの充実を図りま
す。



(2) つながりプラン

① 施策4 学校支援

目 標 子ども、保護者、地域のつながりを広げます。

方策例☆学校支援のためのボランティア活動の継続と充実を図ります。
☆訪れやすい学校づくりのため、開かれた学校づくりを一層推進します。



② 施策5 地域学習

目 標 地域での子どもから大人までの交流の機会を広げます。

方策例☆ポイントラリー運動など、美咲町の自然や歴史を活かした事業を行い、郷土のよさを知り愛着がもてるようにします。
☆「四季おりおりに参加しよう」キャンペーンなどを行い、地域の自然や文化を知る機会を増やします。

③ 施策6 住民交流

目 標 文化・スポーツ活動を振興し、地域住民の交流を深めます。

方策例☆地域の文化財・伝統・歴史のよさを知り、保存・継承していく活動を支援します。
☆書道、華道、絵画、舞踊、川柳、押し花などの文化活動を支援します。



(3) 夢育みプラン

① 施策7 夢育て支援

目 標 子どもたちの夢を育み、目標を持った生活ができるようにします。

方策例☆職場体験学習をはじめ、子どもが社会と関わる活動を支援します。
☆保育園⇒小学校⇒中学校と、夢を語り、描く場面を持ち、「夢リレー」を展開します。荒唐無稽な夢から、努力を重ねて実現していく夢へと成長していく足跡を残します。



② 施策8 子育て支援

目 標 夢の広がる子育て支援の取組を推進します。

方策例☆子育て支援団体、子育て支援センター・乳幼児クラブなどと連携した美咲子育て支援地域協議会の再構築と、地域団体による積極的な運営を図ります。

☆育児相談の充実

☆美咲町次世代育成支援行動計画との連携。

「みんなで子育て ささえあい 安心して暮

らせる『元気』なまち 美咲町」(美咲町次世代育成支援行動計画基本構想の基本理念より)



③ 施策9 生きがいづくり

目 標 明るく生きがいを持って生活できる環境を作ります。

方策例☆地域スポーツの振興のため支援活動を行います。生涯を通じてできるスポーツづくりを目指して、地域独自のスポーツ振興を推進します。

☆俳句や川柳などに取り組む事業「さくらのうた」の充実発展を図ります。

☆公民館、図書館などの施設の有効活用を図ります。



《3つのプランと領域別の重点施策》

領域 プラン	学校教育	家庭・地域社会	生涯学習・スポーツ・文化
学びプラン	学力向上施策	しつけ支援施策	読書推進施策
つながりプラン	学校支援施策	地域学習施策	住民交流施策
夢育みプラン	夢育て支援施策	子育て支援施策	生きがいづくり施策

学びプラン、つながりプラン、夢育みプランを推進していくためには、保育園、小・中学校、行政部局をはじめ地域社会の諸団体との連携が必須で、縦横の取組の組織化を通して、目標に迫っていくことができます。

第4章 施策の実現に向けて

1 推進体制

(1) 計画の周知

冊子に関係者に配布し、計画の周知を図ります。

リーフレットを作成し、全戸配布し、広く住民の理解と協力を得るようにします。

広報みさきや美咲ネットなどを利用し、適宜、必要な情報を提供しながら、町民の本計画に対する理解を深めることが必要です。

(2) 協働体制の構築

家庭や学校関係者はもとより、地域住民も子どもたちの成長にかかわる当事者として、共に子どもたちの教育に携わっていく必要があります。

この計画の推進に当たっては、家庭、地域住民、ボランティア、NPO、企業、教育関係団体、青少年団体、大学など、多様な主体者と行政が、この計画の基本目標を共有し、それを実現すべく協働する仕組みづくりも研究していきます。

(3) 推進組織

計画の推進に当たっては、教育施策がより充実したものになるよう、保育園、小・中学校、図書館、公民館、体育館、住民福祉、保健福祉、健康増進などの関係分野の行政部局がより緊密に連携していくことが求められます。

進捗状況の把握、新たな課題への対応、振興計画の修正などの推進上の工夫改善が求められます。

進捗状況は、町民に広く情報提供することが必要です。



2 関係団体機関との連携

この計画の推進にあたっては、町、学校、家庭、地域の協働関係が不可欠となります。お互いの分担を明確にし、連携を取り合って継続的に取り組んでいく必要があります。

町の役割

町は、振興計画実施の主体者として町民への計画の周知とともに、町の各部局を中心に、PTA、高等学校、特別支援学校などの教育関係団体・機関、スポーツ関係団体、文化関係団体との協力や連携を図りながら、目標達成に努めていく必要があります。

また、学校教育と生涯学習の良好な環境整備に努めていく必要があります。

学校の役割

学校は、子どもたちに将来自立して社会で生きていくための基礎となる知徳体のバランスのとれた生きる力を培う場です。

教職員は家庭地域と連携し、使命感・倫理観に基づき研さんに努め、学校経営方針のもと、子どもたちそれぞれのもっている力を最大限引き伸ばすよう努める必要があります。

家庭の役割

家庭は、生涯学習の場であり、その文化的環境を向上させ、教育力を上げることにより、子どもたちの基本的な生活習慣や、社会のルール、他人に対する思いやりや善悪の判断など社会生活をしていくうえでの基本的なことを教える場です。

親は、自分の子の教育の第一義的な責任を負うことを自覚し、深い愛情とともに、子どもたちをしつけていく必要があります。

地域の役割

地域は、人と人がつながるとともに、伝統・文化の継承の場です。さまざま体験や活動ができ、社会のルールや人間関係を学ぶ場でもあります。こうした機会を提供し、地域全体で子どもたちを守り育てていく必要があります。

また、一人一人の大人の生き方が子どもの成長に影響を与えることを自覚し、行動する必要があります。

3 計画の推進と評価

本計画が遂行された5年後、「住民意識アンケート」を実施し、進捗状況の点検・評価を行います。また、住民の声を教育行政に反映するシステムづくりが一層求められます。

(1) 学びプランの目標値 (上段は平成23年度、下段は平成17年度のアンケート結果)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 3	お住まいの地域の子どもは、いきいきしていると思いますか。	43.5 (31.6)	40.7 (49.9)	13.4 (13.6)
問 6	美咲町の学校教育は、家庭との信頼関係がしっかりと築けていると思いますか。	20.8 (11.1)	66.2 (68.4)	11.6 (16.6)
平 均		32.1 (21.4)	53.5 (59.2)	12.5 (15.1)

問3、問6の

「はい」の回答の平均を

平成28年度目標 **40%**

にします。

また、学力や生徒指導面を県平均を上まわるレベルにします。

(2) つながりプランの目標値 (上段は平成23年度、下段は平成17年度のアンケート結果)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 1	お住まいの地域の地域行事・活動は活気があると思いますか。	41.2 (29.9)	27.3 (35.8)	29.2 (31.2)
問 2	歩行者や自転車にとってお住まいの地域の交通は安全だと思いませんか。	37.5 (30.4)	13.4 (21.2)	48.6 (43.9)
問 3	お住まいの地域の子どもは、いきいきとしていると思いますか。	43.5 (31.6)	40.7 (49.9)	13.4 (13.6)
問 4	お住まいの地域は高齢者が暮らしやすい環境だと思いますか。	31.5 (29.0)	28.2 (33.1)	38.9 (34.2)
問 5	お住まいの地域は障害のある、なしに関わらず誰もが暮らしやすい環境だと思いますか。	28.7 (22.9)	32.4 (37.6)	38.9 (35.8)
平 均		36.5 (28.8)	28.4 (35.5)	33.8 (31.8)

問1～問5の

「はい」の回答の平均を

平成28年度目標 **40%**

にします。

(3) 夢育みプランの目標値

(上段は平成23年度、下段は平成17年度のアンケート結果)

	設 問	はい	わからない	いいえ
問 3	お住まいの地域の子どもは、いきいきしていると思いますか。	43.5 (31.6)	40.7 (49.9)	13.4 (13.6)
問 7	あなたは現在、何かを学ぶ活動やスポーツ活動を行っていますか。	35.6 (28.5)	1.9 (3.0)	62.5 (64.7)
問 8	美咲町の文化施設・スポーツ施設について満足されていますか。	26.8 (19.2)	46.8 (50.5)	26.4 (26.2)
問 9	あなたは地域の歴史や文化について、他地域の人に話すことができますか。	19.4 (15.3)	25.5 (20.4)	55.1 (59.8)
問 10	美咲町は男女の差別なく、ともに自己実現が図れる町だと思いますか。	28.7 (21.0)	53.7 (57.4)	17.6 (17.8)
	平 均	30.9 (23.1)	33.7 (36.2)	35.0 (42.1)

問3、問7、問8、問9、問10の「はい」の回答の平均を

平成28年度目標

35%

にします。



あとがき

社会状況の激しい変化や価値観の多様化が進み、子どもや保護者をはじめ地域住民、関係者にもさまざまな課題が生じています。そのような中、未来を担う子どもたちの教育に対する期待はますます高まっています。

私たちは「子どもは地域の宝」「教育は未来への投資」を掲げ、地域住民こそが、子ども、子育て、教育に関心を示し、何らかの関わりを持つことが大切だと考えています。また、一人一人が生涯にわたって充実した生活を送るためには、生涯を通じて学び続けることもますます必要になってきています。

大人は子どもから元気とパワーをもらい、子どもは大人から知恵をもらいます。学校、家庭、地域もお互いに響き合って向上していきます。お互いにつながり合って支え合うしくみづくりが大切になります。

美咲町が誕生して6年。各地区には、個性豊かな歴史、文化や人材が息づいており、合併によって学びの資源が豊富になったといえます。また、若者をはじめ新たな人的資源も生まれつつあります。これら美咲町の資源をどう活かすかもポイントになると思います。

くしくも本年は、未曾有の大震災に見舞われました。悲しくやり切れない気持ちにもなりましたが、つながり、絆、支え合い、優しさなどが発揮された場面も数多くあります。心に留めておきたいものです。

この答申が、今後の教育施策やまちづくりに少しでも活かされれば幸いです。

美咲町教育基本計画策定にあたり、ご協力いただいた町民の皆様、ご助言をいただいた美作大学・美作大学短期大学部の松岡信義教授に感謝申し上げます。

平成 23 年 11 月

美咲町教育振興基本計画策定委員会

(資料1)

美咲町教育振興基本計画策定委員会規約

美咲町教育委員会訓令第 1 号

平成 22 年 12 月 10 日制定

(目的)

第1条 本町においては、大きく変化する社会の流れに適切に対応し、生涯にわたって、心豊かに、たくましく生きていくとともに、豊かで活力のある社会を築き、支えていく意欲と実践力を備えた町民の育成を目指す必要がある。そのため、学校教育、家庭教育、社会教育、スポーツ振興・地域文化の各分野にわたる中長期的な見通しを持った幅広い教育施策が必要である。

そこで、町教育の振興を図るための教育計画を具体的に検討するため、美咲町教育振興基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を調査審議し、その結果を教育長に提言する。

- (1) 町教育振興基本計画の策定に関すること。
- (2) その他、美咲町の教育に関すること。

(組織)

第3条 委員会は委員12名以内で組織するものとし、学識経験者、教育関係者、町内団体、代表者、保護者、関係行政機関の職員等の中から美咲町教育委員会教育長が委嘱し、任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は平成24年3月31日までとする。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選とする。
- 3 会長は委員会を代表し、会議を主宰する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長を務める。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。
- 4 会長は、必要に応じて、委員会の会議に関係者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。
- 5 委員会の会議は、会長が必要と認めるときは、公開することができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において行う。

(その他)

第8条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、会長が別に定める。

附 則 この規約は、平成22年12月10日から施行し、平成24年3月31日をもって廃止する。

(資料2)

美咲町教育振興基本計画策定委員会委員

	区 分	氏 名	所属・職名	備 考
委員	学識経験者	玉木 陽一	元小学校校長	会長
		山崎 慶昭	民生児童委員協議会会長	
	教育関係者	石井千栄子	藤原保育園園長	
		佐々木 勇	美咲中央小学校校長	副会長
		西村 睦美	柵原中学校校長	
	町内団体関係者	岩本 信正	青少年育成活動連絡会会長	
		表田 実典	柵原星の里スポレク倶楽部代表	
		小島 謙	人権教育推進協議会会長	
	保護者等	飯田 純子	旭小学校地域コーディネーター・主任児童委員	
		寒竹 直人	平成 22 年度町 PTA 連合会代表	
		前田 陽司	平成 23 年度町 PTA 連合会代表	
		青田 昌和	体育協会旭支部長	
	行政機関	福田 芳幸	保健福祉課課長	
	庶務	桑元 英昭	教育総務課課長	
筈尾 芳郎		生涯学習課課長		
山本 教公		指導主事		